

この研究は「ライフスタイル」の変化と子どもの成長で、中国から渡日した中学生たちはいかに異文化に適応したのかについて明らかにする。

対象は中国人家庭に生まれ、10歳から15歳まで日本に来て日本の中・高・大学校経験がある日本の大学に在学中の人たち。

本研究の方法は研究に当てはまる4人の研究対象者に自由に質問を投げかけ、自由回答形式でインタビューを実施した。

本文の第一章は研究対象者が来日後に直面する困難を先行研究で行い、本研究の目的と方法を明確した。第二章は研究対象者にインタビューをした具体的な内容。第三章はインタビュー結果から見える外国人子供の現状、現状によるアイデンティティの揺らぎと再構築。

研究対象者は文化的な背景、家庭環境や学校生活などの影響で身に付けた振る舞いや行動様式とそれを否定する日本的な価値観との狭間で葛藤している。彼らは家庭内の「母国」と学校や社会の中の「日本」という二つの言語、文化、生活様式、価値観に引き裂かれ、分裂した状態に陥る。

本研究の意義は中国と日本の「ライフスタイル」の比較から日本に慣れるまでの心理変化、いかに異文化に適応したのかについて明らかにすることができた。研究対象者が日中の狭間で葛藤している状態が分かった。しかし、自分たちのアイデンティティの現状を悲観的に受容するではなく、マイナス性からプラス性の転換の構築・確立を目指すべきだと考える。両方の言語、文化、価値観を身につけ、民族、国籍を超えて、豊かな独自の文化を創出することは可能である。